

高校卒業直後に大学に進学する学生数、特に低所得層学生の減少が顕著（11月25日）

米国教育審議会（American Council on Education : ACE）は11月25日、高校卒業直後に大学に進学する学生に関するデータの分析結果を発表した。本分析結果は、米国国勢調査局（U.S. Census Bureau）のデータに基づいてまとめられたものである。これによると、2008年以降、連邦政府及び大学が提供する学資援助は増額されているにもかかわらず、高校卒業直後に大学に進学する学生数を2008年と2013年で比較すると、顕著に減少していることが明らかになった。特に、年収が全体の下位20%に入る低所得層学生に関しては、2008年には高校卒業者の55.9%が直後に大学に進学していたが、2013年には45.5%に減少していることが判明した。ACEによる分析では、2008年以降、大学授業料が急激に高騰したため、特に低所得層学生は、財政的に大学進学は不可能と考えた可能性があるとしている。また、多くの高校卒業者は、高等教育の経済価値を認識しないままに就職した可能性があると推測している。

なお、ACEによる本データに関する分析は、
<<http://higheredtoday.org/2015/11/25/where-have-all-the-low-income-students-gone/>>
から閲覧可能。

Inside Higher ED, *The Missing Low-Income Students*

<https://www.insidehighered.com/news/2015/11/25/study-finds-drop-percentage-low-income-students-enrolling-college>